

黒龍江省における対ロ・日・韓の経済貿易促進戦略に関する分析と提言

中国黒龍江省社会科学院東北アジア研究所副所長 笄志剛

中国の改革・開放以降（とりわけWTO加盟後）、黒龍江省の対外貿易は急成長を遂げた。同省はすでに140以上の国・地域と貿易関係を確立し、対外貿易総額は1978年の4,535万ドルから2008年の229億ドルへと急増し、年平均23%増となった。地域内総生産（GRP）も年平均13%増を実現した。黒龍江省の対外貿易額は2006年に100億ドルを超えていたが、2008年は世界金融危機の影響を乗り越え、対外貿易額が229億ドルで、全国第11位となった。そして、2009年上半年期、黒龍江省の対外貿易額は76億ドルで、全国第13位を占めた。

2008年までのデータをみると、黒龍江省の対外貿易の規模は記録更新を果たし、ロシア、日本、韓国、アメリカなど主要貿易相手国に対して、全面的なプラス成長を実現した。輸出入品目の構成がバランスのとれたものとなっており、とりわけ輸出においては、機械設備、電力設備とハイテク製品が牽引的な役割を果たしている。一次資源製品の輸入も安定的に増えている。

2009年以降、世界金融危機が黒龍江省に大きな影響を与えた。たとえば、1～8月期は黒龍江省の対ロ貿易額が34.6億ドルで、前年同期比40.7%減となり、対外貿易全体に占める比率も47.3%から33.3%へと減少した。他方、同時期における対アメリカ、サウジアラビア、キルギスタンの貿易が全体に占める割合は少し増え、対外貿易の多極化の傾向が見られたが、対日本、韓国の貿易額は大幅な減少となった。そのため、黒龍江省の対外貿易および国際環境は楽観視できない状況にある。特に、黒龍江省にとって、ロシア、日本、韓国との経済貿易協力は対外開放の実現に必要な不可欠な存在にもかかわらず、直近のこの3カ国との貿易は低迷傾向にあるといわざるを得ない。

1. 黒龍江省とロ・日・韓の経済貿易協力の向上と強化の重要性

黒龍江省対外貿易の高成長の要因としては、ロシア、日本、韓国との貿易によるものが大きく、明らかに資源や技術等の相互補完性がある。黒龍江省における改革・開放政策と長年の対外貿易成長の展開をみると、ロシア、日本、韓国3カ国との経済貿易交流と協力関係を一層強化することは、極めて重要な意義を持つといえる。

第一に、ロシア、日本、韓国との経済貿易関係は、黒龍江省の対外開放の質、規模、水準の向上につながるだけでなく、今後の北東アジア地域協力への参与、国境地帯の対外開放を一層推進できる。省・自治区・直轄市別の対ロ貿易をみると、黒龍江省は全国首位を占めている。そして、東北三省の国境貿易において、極めて重要な省である。また、日本や韓国の投資を受け入れる重要な地域として、黒龍江省は北東アジア地域の中心部に位置し、その役割が重要視されている。

第二に、対ロシア、日本、韓国貿易は黒龍江省の対外貿易に占める比率が大きい。ロシア、日本、韓国は黒龍江省の対外貿易と外資利用の牽引役となっており、近年の対3カ国の貿易額は同省の対外貿易総額の約60%を占めている。2008年には、同省の対ロシア、韓国、日本の貿易額がそれぞれ110.6億ドル、9.6億ドル、6.2億ドルとなっており、同省対外貿易総額の55.2%を占めた（表1）。

第三に、対外貿易の発展に伴って、ロシア、日本、韓国からの投資は黒龍江省の外資導入に占める比率が高く、長年にわたって10%強の水準を維持しており、最高時には16.8%に達した。日本、韓国からの投資は、生産拠点の移転、国際的な先進技術や管理経験の吸収、とりわけ輸出型への旧工業基地の改造などにおいて、重要な役割を果たしてき

表1 2005～2008年における黒龍江省の対ロシア、日本、韓国の貿易額と比率

単位：億米ドル、%

年	黒龍江省の対外貿易額	対ロシア貿易額 (全体に占める比率)	対韓国貿易額 (全体に占める比率)	対日本貿易額 (全体に占める比率)	ロシア、韓国、日本の合計
2005	95.7	56.7 (59.0%)	5.05 (5.2%)	5.84 (6.0%)	70.2%
2006	128.6	66.9 (52.0%)	4.7 (3.6%)	6.3 (4.8%)	75.3%
2007	173	107.3 (62.0%)	4.2 (2.4%)	5.9 (3.4%)	67.8%
2008	229	110.6 (48.3%)	9.6 (4.2%)	6.2 (2.7%)	55.2%

(出所)『黒龍江統計年鑑』と関連資料より作成。

た。表2で示すように、2008年までのロシア、日本、韓国からの投資額はそれぞれ6.8億ドル、3.5億ドル、8.4億ドルとなっており、同省の外資受入総額（118億ドル）の15.88%を占めた。

2. 黒龍江省の対ロシア、韓国の経済貿易協力戦略の実施状況とその進展

黒龍江省は、2005年に対ロシア、2007年に対韓国の技術経済貿易戦略をレベルアップさせた。そして、黒龍江省の対ロシア、対韓国経済協力は一層推進され、貿易額と投資額が増え、協力関係は拡大している。とりわけ、ロシアとは、林業、エネルギー、鉱物資源など分野の協力が全面的に拡大され、機械設備、電力設備、農産物と家具の輸出が増加傾向にある。綏芬河総合保税区を通じて対口経済協力の推進も期待されている。また、韓国とは、機械設備、電力設備、石油精製、鋼材、農産物、家具、電子製品、衣類など分野の協力関係が一段と深まった。

2005年に打ち出された「対口科学技術経済貿易協力の新戦略」の目標として、2007年までに黒龍江省の対口貿易額を70億ドルへ、2010年には140億ドルへと拡大することが掲げられている。また、黒龍江省の対口投資額について、2007年には4億ドルへ、2010年には8億ドルへ成長することも目標としている。2006年の黒龍江省の対口貿易額は66.9億ドル、2007年は100億ドルを超えて107億ドルだった。そして、2007年における黒龍江省の対口投資額は5.8億ドルに達した。1988年から2008年5月までの黒龍江省とロシアの経済協力プロジェクトは、累計で2,753件に上っており、うち対口投資プロジェクトは281件となった。

また、韓国との科学技術、経済貿易協力について、2007年の時点で黒龍江省が目標として、「2010年までに韓国との貿易規模について、年平均20%の伸び率で増進させて年間10億ドルを目指し、韓国からの投資額は年平均70%の伸び率で増進させて累計額を10億ドルに増やす」ことを掲げた。2008年には、黒龍江省の対韓国貿易額は9.6億ドルに達し、最終目標達成の可能性が高まった。また、2008年までの韓国からの投資累計額は8.4億ドルとなった。

中国共産党第十七回全国代表大会において、国境地域開放の推進が明確に提出された。黒龍江省もその対象地域の

一つとなっていることから、対口開放戦略には新たなチャンスが生まれてくるだろう。さらに、漸進的な発展経験から、黒龍江省の対ロシア科学技術経済貿易協力戦略に新たな変化が見られた。いわば、対口貿易の主要地域として確固たる地位が築かれ、対韓貿易・投資の低下傾向を好転させ、対日貿易を確実に拡大させると同時に、アメリカやサウジアラビア、EUなどの貿易相手国の多元化も図ることである。とりわけ、ポスト世界金融危機時代において、ロシア、日本、韓国経済の景気底抜けに伴い、黒龍江省と北東アジア地域協力および八大経済区構想を基に、「ハルビン～大慶～チチハル工業回廊」を機動的に生かすこともできるだろう。

具体的には、ロシア、日本、韓国と貿易品目構造の多様化、産業リンクエッジおよび生産拠点の移転、科学技術協力の拡大、観光分野の協力を力を入れて、経済貿易協力を推進することが挙げられる。とりわけ、ロシアと韓国に対しては、科学技術貿易協力戦略によって定められた「黒龍江省の国境地域開放先導区的确立」と「北東アジア地域協力の推進」の有利条件が作り上げられた。対ロシア、日本、韓国の経済貿易協力新戦略は、黒龍江省の北東アジア地域協力への参与を増大させた。また、貿易港、鉄道、道路の建設は、貿易拡大、物流企業の成長、国内外企業や投資家との協力関係などに対して一層便利な条件を提供したと考えられる。

3. 黒龍江省とロシア・日本・韓国の経済貿易協力の新たな課題

世界金融危機の影響を受け、黒龍江省における対ロシア、日本、韓国の貿易は低迷、停滞などの厳しい状況に直面している。黒龍江省の経済貿易および企業による国際市場の開拓においても困難が生じている。国際社会の協力によって世界経済が回復しつつあり、対外貿易も復調の兆候を見せはじめている。しかし、世界各国の保護主義などの不確定要素は、黒龍江省の対外貿易協力にとって、良いチャンスであると同時に、とりわけロシア国内およびその周辺地域においての競争的要素ともなっている。言い換えれば、黒龍江省が直面している困難な状況は楽観できないが、潜在的チャンスとして捉えることもできる。

まず、世界金融危機の影響でロシア経済が低迷し、対口

表2 ロシア、日本、韓国の対黒龍江省投資状況（2008年までの累計）

単位：億米ドル、%

全国の外資受入額	黒龍江省の外資受入額 (全国比)	ロシアの対黒龍江省 投資額 (構成比)	日本の対黒龍江省投 資額 (構成比)	韓国の対黒龍江省投 資額 (構成比)
6,800	118 (1.74%)	6.8 (5.76%)	3.5 (3.0%)	8.4 (7.12%)

(出所) 中国商務部、中国国家統計局、黒龍江省商務庁資料より作成。

シア経済貿易協力は転換期を迎えている。

2009年1～7月、ロシアの対外貿易額は2,507億ドルとなり、対EU、APEC、CIS諸国の貿易額は前年同期比それぞれ48.3%、41.6%、47.2%減少した。そして、石油や天然ガスの輸出額もそれぞれ同52.1%減、同48.6%減となった。これらの影響で中国の対ロシア貿易額は急速に落ち込んだ。そして、黒龍江省の対ロシア貿易額も低下し、2009年1～8月では前年同期比41%減と大幅に下落した。また、対日本、韓国貿易額も低下（もしくは停滞）に陥った。2009年1～5月には、中国がロシアにとって第一の貿易相手国だったが、6～7月には第2、3位へと下がった。2009年1～8月、中国の対ロシア貿易に占める黒龍江省の比率が前年同期比15%下落した。

次に、黒龍江省は中国の対口貿易における主な省だったが、対口貿易の「強省」とは言えなかった。対口貿易額をみると、黒龍江省はすでに北京市、吉林省、遼寧省、山東省に追い越されている。黒龍江省は対口貿易の「大省」から「強省」へ、対日本・韓国貿易の「小省」から「大省」へ早急に転換させる必要がある。

近年、黒龍江省の新たな河川・水陸一貫輸送ルートによって内陸省のゆえに抱えていた海洋輸送ができないという問題はクリアされた。そして、吉林省も河川から海へと抜けるロシア向けの連絡通路を開設した。遼寧省、吉林省の対日・韓貿易や投資受入の規模、人材交流の頻度を比べると、依然として黒龍江省との差が開いている（表3）。

そして、日本・韓国に対する投資誘致活動についても、遼寧省と吉林省に比べて経験や特徴が欠けている。そのため、黒龍江省は対日・韓貿易において新たな戦略策定の有利な時機を捉えて、遼寧省、吉林省、山東省に見習って対日、韓貿易の「大省」になることを目指さなければならない。

また、黒龍江省の産業構造をみると、全体として輸出指向の面で劣り、対ロシア、日本、韓国貿易の商品構造の場合、地場製品の競争力が低く、金額と割合の両方ともかなり低く、15%を占めるにすぎない。輸出製品の場合、一流製品に欠けており、今後は自主ブランドの確立および輸出戦略力を持ったブランドの強化といった課題の解決が必要

である。

これらの課題は、黒龍江省の産業構造そのものを反映しており、ロシア、日本、韓国等の国際市場の需要を満たすまでには到底及ばないのである。輸出指向型の製品は国際市場とつながっておらず、製品構造はバランスに欠けていて、競争力を持ったハイエンド製品はまだ形成されていない。ほかにも、六大基幹産業の対外輸出貿易製品のサポート力も十分ではなく、重化工業や基盤工業の地場製品に対する輸出指向と現地化の促進は明確ではない。これらの課題があるゆえに、黒龍江省の対外輸出拡大と産業の調整、発展との間に相互関連性が持たず、対外輸出規模の拡大と質的向上という課題は産業発展によって解決することができないままである。

4. 黒龍江省と口・日・韓の経済貿易促進戦略のための基盤作りと発展機会

(1) 自然資源と産業基盤の優位性

黒龍江省は自然資源が豊富で、産業基盤の優位性を持っており、生態環境が良好で経済発展のポテンシャルは高い。黒龍江省は、世界的に有名である三大黒土地帯の一つで、地形は平坦で土質は肥沃で、耕地は連なり、水源も豊かである。穀物（商品化したもの）は中国首位、牧畜業は中国第二位、水稲、大豆や山の特産物は中国の上位、グリーン食品（環境保全型農業によって栽培された野菜類）の栽培面積は全国首位を占めている。また、黒龍江省の石炭、木材、穀物、石油資源は中国において重要な位置を占め、産業発展に十分なエネルギー、電力、原材料を提供することができる。そのほか、大森林、大草原、大湿地、大積雪などを有し、自然環境にも恵まれている。

(2) 東北地区等旧工業基地の振興とロシア極東・シベリア地域開発の連携の好機

2009年9月、中国政府は「東北地区等旧工業基地の一層の振興戦略に関する若干の意見」を批准した。その中で、東北地区の一層の対外開放に合わせ、ロシア極東地域の開発と中国の東北振興政策をリンクさせるための新構想を

表3 黒龍江省、山東省、遼寧省、吉林省の対日本、韓国輸出入（2008年）

単位：億ドル

	黒龍江省		山東省		遼寧省		吉林省	
貿易額	229		1,581.4		724.4		133.4	
国別貿易額	対韓国	対日本	対韓国	対日本	対韓国	対日本	対韓国	対日本
	9.6	6.2	216.8	184.37	56	109	7.1	14.8

（出所）中国国家統計局、中国税関統計資料より作成。

打ち出した。

まずは、2009年9月23日に中ロ首脳がニューヨークの会談で合意した『中国東北地区とロシア極東・シベリア地域の協力に関する計画綱要』（以下、計画綱要）に基づき、黒瞎子島（ロシア名・大ウスリー島）の保護および開発計画策定を速やかに実施することが重要である。具体的には、国境地帯の開放や、資源開発、地域経済協力、国内外の産業拠点の移転などの分野で連携し、また、条件に適合した地域には、国境地域貿易センター、経済協力区、輸出加工区、輸入資源加工区を建設する。さらに中ロ地方レベルの協力発展基金の設立を検討し、中ロの協力計画綱要のプロジェクト実施を援助する。国境地域港を利用し、国内貿易の貨物の国境外運送についての発展協力をし、黒龍江、吉林の両省内で流れる河川から海上に抜ける輸送ルートの常時運営を推進する。

中国の東北振興とロシア極東地域開発の連携は、東北地区にとって世界金融危機の対処策とも言える。つまり、中ロ貿易の下落を食い止め、国境地域の対ロ貿易を拡大させ、北東アジア地域協力の新たな変化に適応するための重要な対策である。計画綱要によると、ロシアが力を入れている極東地域の交通インフラ整備に必要な投資額は220億ドルで、さらに6,600キロの道路補修工事、5,100キロの送電網、2,400キロの通信ネットワーク、新たに建設する地方空港と10カ所の港湾には合計で1,000億ドル以上の投資が必要とされる。2012年にロシアでAPEC開催が予定され、必要とされる投資額規模は60億ドルを超えており、このうち、ウラジオストクのルースキー島開発だけで40億ドルが必要とされている。そして、2014年にはロシアのソチで冬季オリンピックの開催も決まっており、ロシア政府はそのために3,000件以上の関連プロジェクトを計画している。競技場、宿泊、交通、通信等への投資は60億ドル以上と見込まれている。ロシア極東地域のGRPの800億ドルから1,400億ドルへの上昇を実現するために、ロシア連邦政府だけで2,020億ルーブルの支出が必要で、さらに民間投資は2,841億ルーブルが必要とされる。

(3) 八大経済区構想と国境地域開放の推進

世界金融危機の影響に対応し、黒龍江省の経済・社会発展を一層推進するために、黒龍江省は哈大齊工業回廊建設区、東部石炭電力化学基地建設区、北東アジア経済貿易開発区など「八大経済区」構想を推し進めている。黒龍江省が北東アジア地域の中心に位置することから、北東アジア地域の経済貿易協力の推進のために、「哈大齊工業回廊の産業基盤をベースに、中核都市を結節点にして国境地域ま

で繋ぎ、さらに北東アジア地域、EUに広げる」という北東アジア経済貿易開発区構想が提起された。

2009年6月27日、胡錦涛国家主席が黒龍江省を視察した際に、「黒龍江省は中国の対ロシア経済貿易協力の『橋頭堡』かつ『機軸』であり、国境地帯のメリットを生かし、発展の機会を捉えるべきだ」と示した。これは黒龍江省の更なる対外開放と国境地域開放を拡大させるための具体的な指示だった。具体的には、ロシア、日本、韓国と密接な経済協力を行い、ロシアを中心に日本や韓国との貿易も重要な両翼として、最終的にはロシア、日本、韓国への全面的開放を実現させ、新たな戦略を構築させていくことである。

(4) 黒龍江省の対ロ経済協力から日本、韓国へ広げる基盤作り

黒龍江省はロシアと約3,000キロの国境線でつながり、15カ所の対ロ税関をもつ。中ロ貿易の「橋頭堡」と称される黒龍江省の対外貿易は、対ロ貿易への依存度が比較的高く、一貫してロシアとの国境地域貿易の「大省」としての地位は保っている。

世界金融危機によるロシア経済低迷などの不利な条件の中でも、2008年における黒龍江省の対ロ貿易額は前年比3.1%増の110.6億ドルに達した。その上、対ロ輸出品目構造の改善が見られ、機械設備、電力設備とハイテク製品輸出の割合が上昇し、農産物の輸出も大幅に増えた。

黒龍江省がロシア国内で1,200ヘクタールの森林伐採権を持ち、木材の備蓄量は黒龍江省の森林面積に相当する13.2億立方メートルに達している。黒龍江省は2005～2008年にロシアで新たに229件の投資プロジェクトを立ち上げ、実行ベースの投資額は19.5億ドルとなっている。

2009年1～6月には、世界金融危機の影響を受けながらも黒龍江省の対ロ投資件数は前年同期比37%増の32件で、投資額（実行ベース）は1億7,400万ドルとなっている。黒龍江省がロシアで獲得した18件の鉱山資源開発権のうち、独立開発権が12件、合資協力開発権が6件となっており、投資額は1.2億ドルに上っている。黒龍江省はロシアで4件の石油・天然ガス投資協力プロジェクトに取り組んでおり、111の油井の共同開発を行っている。うち、アマザール森林パルプ一体化プロジェクト、黒龍江紫金龍興鋁業有限公司トゥヴァ鉛亜鉛鋁山、ロシア連邦沿海地方ウスリースク経済貿易協力区プロジェクトの投資額はそれぞれ4.35億ドル、1.98億ドル、2.9億ドルに達している。

また、黒龍江省とロシアを結ぶ3本の送電線によって、ロシアから累計で50億キロワットの電力を購入した。黒龍江省の天狼星発電所設備有限公司は、トロイツク2×660MW発電所のエンジン設計および設備を提供することでロシア

側と同意した。このプロジェクトは中国にとって初めてのロシア発電所の工事請負であり、契約額は13億ドルに達している。このようにエネルギーや、電力、木材加工など分野での中ロ協力は黒龍江省のニーズを満せるだけでなく、日本、韓国との協力までに広げることができ、ロシア極東地域における中日韓の共通利益をもたらすことができる。

5. 黒龍江省の対ロ・日・韓の経済貿易促進戦略についての提言

第一に、ロシア、日本、韓国との経済協力戦略の推進は、黒龍江省の対外開放の牽引力となる。ロシア、日本、韓国3カ国は、黒龍江省の最重要経済貿易相手国であることから、黒龍江省の対外貿易および北東アジア地域協力への参与においては、3カ国は極めて重要な役割を果たす。黒龍江省は3カ国と政治・経済・文化分野で緊密な関係を持っており、今後、ロシア、韓国との科学技術貿易協力戦略の成果をより確固たるものとし、早急に日本との経済貿易関係の強化を行動に移す必要がある。

第二に、ロシア、日本、韓国との経済協力戦略の推進により、東北地区等旧工業基地の振興と中国の農業・食品分野における「大省」の建設と相互連携させながら、経済発展方式の転換を目指す新たな推進力にしなければならない。

対外貿易における黒龍江省の比較優位を支えるのは農業と天然資源である。ロシア、日本、韓国に対して黒龍江省の農産物は優位性があり、3カ国は同省の主な農産物輸出市場である。しかし、黒龍江省は現在対ロシア向け農産物輸出の比較優位性を持っているが、対日本、韓国のグリーン食品や特色ある農産物の輸出は簡易な加工品に限られている。高付加価値の加工食品開発が今後期待される分野である。さらに、日本、韓国への輸出を通して、農業加工技術を進化させながら有機・バイオ分野の農業発展を目指し、国際的に知名度の高い農産物ブランドを創出して関連分野の発展を推進しなければならない。

第三に、黒龍江省とロシア、日本、韓国との経済協力戦略を推進し、相互に補完しあう仕組みを目指し、海外進出と外資誘致の双方を重視した戦略をとるべきだ。

3カ国との経済協力戦略の推進は、貿易規模の拡大、輸出品目構成の多様化と投資拡大を促進させるだけでなく、黒龍江省と3カ国の産業構造を相互補完し、ハイテク分野の協力を密接に連携させ、経済協力関係を一層進化させることができる。

日本、韓国の海外への生産拠点移転は労働集約型から資本集約型へ変化しつつあり、産業間連携の傾向が見られる。特に、製造業、ハイテク産業、省エネ、エコロジー、現代

農業等の領域での変化が著しい。黒龍江省は今後も引き続きロシア、日本、韓国のハイテク産業誘致を行う必要がある。

第四に、ロシア、日本、韓国との経済協力を推進すると同時に、科学技術、文化教育分野等の協力も平行して推し進め、全方位、多分野での協力を展開しなければならない。

対ロシア、日本、韓国との経済貿易戦略の最終目的は、黒龍江省に国家級の北東アジア経済貿易開発区を設立し、北東アジア国際物流の中核となることである。国境地域の開放・改革の新機軸を打ち出すために、黒龍江省は対外開放の先導地域、投資の最先端地域、および調和のとれた生活しやすい地域となることを目指しなければならない。

第五に、中国の東北振興およびロシア極東地域開発を対ロシア・韓国との経済貿易戦略に連携させながら黒龍江省の「四環状型開発戦略」を推進する。具体的には、3,222キロにおよぶ黒龍江省と吉林省の国境線を最大限開放し、ロシアを「第一環」に、日本と韓国を「第二環」、北東アジア地域を「第三環」、アジア太平洋地域を「第四環」とし、河川から大海に抜けて陸海を連動させる。

「四環状型戦略」を東北地区の対外開放目標として実現するためには、まず「第一環」の構築が黒龍江省にとって急務で必要不可欠である。目下のところ、黒龍江省（または東北地区）対ロ貿易の低迷で形勢は厳しいが、中国東北振興とロシア極東地域開発を連携させながら産業間協力を推進することが今後も重点な課題である。「第二環」については、積極的に黒龍江省の相対的優位性を活かすことが重要である。近年、日本と韓国はロシア極東地域との貿易や投資が増えつつあるので、黒龍江省の企業は対ロシア協力においては競争状況にある。中日韓3カ国がロシア極東地域の利益協調体制を構築するためには、日韓企業の投資を促進し、ロシアを介して中国東北地区、黒龍江省まで延長させることが重要な検討課題である。「第三環」は「第一環」、「第二環」を基にさらに展開させ、ロシアと日韓を主体とした両翼を基礎にし、北東アジア地域協力を拡大させることが重要である。そして、「第四環」は将来の展望として、開発戦略に組み入れていくことが大事である。

参考文献

- (1) 中国商務部、中国国家統計局、黒龍江省商務庁のウェブサイト。
- (2) 黒龍江省商務庁『黒龍江省対外貿易報告』2008～2009年版。
- (3) 範振洪・王愛華・郭全涛『山東と日韓経済合作研究』山東人民出版社、2005年。
- (4) 『黒龍江統計年鑑』2008～2009年版

Analysis and Proposals relating to the Economic and Trade Promotion Strategies toward Russia, Japan and the ROK in Heilongjiang Province

DA, Zhigang

Deputy Director, Northeast Asia Research Institute,
Heilongjiang Provincial Academy of Social Sciences

Summary

From China's reforms and opening-up onward (particularly after joining the WTO), Heilongjiang Province's trade with the outside world has achieved rapid growth. The province has already established trade relations with 140-plus countries and territories, and the total of external trade has increased sharply from US\$45.35 million in 1978 to US\$22.9 billion in 2008.

Out of all China's central and western provinces and autonomous regions, Heilongjiang Province's total amount of foreign trade exceeded US\$10 billion for the first time, in 2006. Then in 2008 it overcame the impact of the financial crisis, the total of external trade, breaking through the US\$20 billion mark, reached US\$22.9 billion, and ranked in eleventh place for the nation as a whole.

While the scale of Heilongjiang Province's external trade has been rapidly expanding, the economic links with Russia, Japan and the ROK—geographically-close to the province and with a relationship in regional cooperation that is deep—have been driving the province's economic growth, and the advantage of the mutual complementarity in resource and technology cooperation has become strikingly evident. In the last few years the trade between Heilongjiang Province and Russia, Japan and the ROK has exceeded 60% of the total amount of foreign trade for the province as a whole. Regarding also the investment from Russia, Japan and the ROK into Heilongjiang Province, in the year where it was largest it reached 16.8%, and the potential is great for it to enlarge further. The economic and trade cooperation with Russia, Japan and the ROK is considered to have an influence not only on Heilongjiang's opening-up to the outside world, but also on participation in future Northeast Asian regional cooperation and a further opening-up to the outside world in the border areas.

From January to August 2009, while the three countries of Russia, Japan and the ROK were also being seriously affected by the global financial crisis, the growth rate of Heilongjiang Province's trade with Russia and the share that Russia constituted within external trade as a whole both declined sharply. Heilongjiang Province's trade with the United States, Saudi Arabia and Kyrgyzstan over the same period expanded rapidly, and while it can be said that the diversification of export markets has progressed, trade with Russia has plummeted, and trade with Japan and the ROK has also decreased greatly. Consequently the trade relations with the three countries of Russia, Japan and the ROK, which had supported the external trade of Heilongjiang Province over many years, have come up against the issue of the adjustment of strategy, and it is becoming impossible to view optimistically also the situation in neighboring countries and the international environment.

This paper, based on the major role-and its significance-of Russia, Japan and the ROK in the external trade of Heilongjiang Province, and on the harshness of the external trade situation accompanying the global financial crisis, takes as an aim, from the perspective of necessity, efficiency and effectiveness, the analyzing of the state of Heilongjiang Province's implementation, and the challenges thereto, of the strategies for scientific and technological cooperation with Russia and the ROK. In addition, with an objective of advancing in extensive, comprehensive and multi-tiered fashion the furthering of economic and trade cooperation strategies with Japan and the economic and trade promotion strategies with the three countries of Russia, Japan and the ROK, it makes proposals for concrete measures toward Heilongjiang's opening-up to the outside world and the expansion of economic and trade relations with Russia, Japan and the ROK in the post-global-financial-crisis era.

[Translated by ERINA]